◇◇

1)第54回日本頭痛学会総会 会長 橋本 洋一郎 先生よりご寄稿

2)「第54回日本頭痛学会総会」開催のお知らせ

3)GPACH-Summit / HMSJ in Asia 2026 開催のお知らせ

4)頭痛研究トピックス～広報委員より最新の論文をご紹介

◇◇

1)第54回日本頭痛学会総会会長 橋本 洋一郎 先生よりご寄稿

『第54回日本頭痛学会総会の開催にあたって』



この度，第54回日本頭痛学会総会を2026年12月4日(金)・5日(土)に熊本城ホール(熊本市)にて開催する運びとなりました．

本総会では，「**頭痛診療の社会実装　―明日へのシナリオ―**」をテーマに，頭痛医療の最新の知見と実践的な技術を共有する場とすべく，基調講演は台湾の Wang 先生，会長講演，理事長講演，27 のシンポジウム(Japan Korea Joint symposium では韓国から 3 名の先生が来日)，2 つの教育セミナー，約 350 の一般演題，プレコングレスセミナー(12 月 3 日開催)・13 のランチョンセミナー・3 つのスイーツセミナー(看護師，薬剤師向け等)・アフタヌーンセミナー・東洋医学セミナーなどの共催セミナーが合計 19(欧米から 3 名の先生)，多くの企業展示(新薬の登場で圧倒される展示になる予定)，市民公開講座など実りのある学会になるよう準備を進めています．禁煙キャラクターの「すわんけん」「すわんぬ」の 2 体の着ぐるみが会場で出迎えてくれると思いますので，記念撮影をして下さい．

第 10 会場では 2 日間，第 5 回日本脳脊髄液漏出症学会学術集会も併催され，頭痛学会参加者も自由に参加できます．脳脊髄液静脈漏出症という最近の話題も知ることが出来ます．

日本頭痛学会が九州で開催されたのは2004年(鹿児島)のみです．2026年に熊本で学会を開催することで，九州全体の頭痛の診療・教育・研究・社会の啓発の底上げを図り，結果として日本全体の頭痛診療の“**標準化**”“**均てん化**”“**社会実装**”を達成できればと考えています．

頭痛診療では頭痛患者さんとの**物語と対話の医療（narrative-based medicine）**が実践でき，治療効果を患者さんとともに実感できる達成感の高い医療です．

頭痛に関する基礎研究・臨床研究で多くのエビデンスがでてきて，治療手段が増えて，「国際頭痛分類第 3 版」や「頭痛の診療ガイドライン 2021」の作成・公開が行われ，**エビデンスに基づく介入（evidence-based intervention：EBI）**が，さらに積極的に行われるようになってきました．診療ガイドラインの策定により治療の**“標準化”**が可能となります．しかし特に一次性頭痛で，治療の必要な多くの患者さんがその恩恵にあずかっていません．ガイドライン作成・公開は，受動的なアプローチ（拡散）であり，研究開発によって得られた知識・技術・製品・サービスを実社会で活用する**“社会実装”**が必要です．

CGRP 関連抗体，ゲパント，ジタンなどの新薬の登場による片頭痛領域の活性化が起こり，日本頭痛学会の会員や専門医が急激に増加している今が，頭痛診療の変革にとって大切な時期と考えられます．学会会員や頭痛専門医の増加，かかりつけ医と専門医の連携や専門医同士の連携による頭痛診療ネットワークの構築で頭痛診療の社会実装を行い，多くの患者さんが新たな頭痛治療の恩恵にあずかれるようにしていければと願っています．

脳神経内科，脳神経外科，小児科，産婦人科，精神科，心療内科，眼科，耳鼻咽喉科，皮膚科，麻酔科，歯科・歯科口腔外科，放射線科の先生，かかりつけ医，学校医，産業医，検診医，脳ドック医，養護教諭，保健師，看護師，薬剤師，心理士，鍼灸師，医療事務などの頭痛診療に携わる方々によって，院内や地域でのチーム医療・連携医療が進化しています．そのような中で，**feasibility（実現可能性）**と **sustainability（継続性）**を念頭においた頭痛に対する EBI の**社会実装のためのシナリオ（計画を実現するための道筋）**を頭痛診療に携わっている皆さんと一緒に創っていければと思っています．

会員の先生はもちろん，非会員の先生，研修医，学生といった幅広い立場の方々（一般市民の方は市民公開講座）にご参集いただきたいと考えておりますので，奮ってご参加いただけますようお願い申し上げます．

2）第54回日本頭痛学会総会 開催のお知らせ

第 54 回日本頭痛学会総会は，大会長 橋本洋一郎先生のもと，「頭痛診療の社会実装－明日へのシナリオ－」というテーマで，熊本で開催されます．多くの魅力的なシンポジウムやセミナー，展示が企画・準備されています．また，今回は同日程で第 5 回日本脳脊髄液漏出症学会学術集会も併催されており，頭痛学会総会への登録で別途登録や追加料金なしでこちらにも参加可能です．現在，オンラインでの参加登録が開始されていますので，知識のブラッシュアップやスキルアップのために会員の皆様はぜひご参加ください．なお，本大会は現地

開催に加えて会期終了後のオンデマンド配信が予定されています.

1. 開催日：2026年12月4日(金)・5日(土)： 会期後に一部オンデマンド配信を予定
2. 会場：熊本城ホール（〒860-0805 熊本県熊本市中央区桜町 3-40）
3. 会長：橋本洋一郎 先生 （社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院）
4. ホームページ： https://square.umin.ac.jp/jhs54/index.html

3)GPACH-Summit / HMSJ in Asia 2026 開催のお知らせ

今期の秋季 Headache Master School(HMS)は, HMSJ in Asia 2026 として, Global Patient Advocacy Coalition for Headache ：GPACH-Summit(頭痛患者アドボカシーに関する国際サミット)と併催で大阪にて実施されます. 現地参加以外に Web 参加も可能です. 国内のみならず海外のトップエキスパートも演者として多く招かれ, 講演の大部分は英語ですが AI による翻訳機能が会場でもオンラインでもご利用いただけます. また, 講演の内容は, 開催後に Post-learning として動画視聴が可能となっており, 繰り返し視聴することで理解を深めることができます. 規定の受講/視聴条件を満たし Post-Exam に合格すると,「Certificate of Headache Master」(認定証)が発行され, 日本頭痛学会専門医には研修認定単位 15 単位, 専門医を目指す先生方には受験資格の研修歴の一部が付与されます.

GPACH-Summit は, 頭痛診療・患者支援にご関心をお持ちの皆様にとって貴重な機会となりますので, ぜひご参加ください. なお, GPACH-Summit のみの参加は無料です.

1. 開催日： 2026 年 11 月 7 日(土):GPACH-Summit, 11月 8 日(日):HMSJ in Asia
2. 会場： なんばスカイオコンベンションホール 7 階ホール
   （〒542-0076 大阪府大阪市中央区難波 5 丁目 1-60）
3. HMSJ in Asia 受講費： 日本頭痛学会員 30, 000 円, 学会員以外35, 000円
4. Co-Chairs:竹島 多賀夫 先生(日本頭痛学会/富永病院)／Audrey Craven 先生(GPACH)
5. 詳細・参加登録:https://gpach-hmsj2026.net
6. お問い合わせ： gpach-hmsj2026@icsevents.com

4)頭痛研究トピックス～広報委員より最新の論文をご紹介

- 特発性頭蓋内圧亢進患者における CGRP による頭痛発作誘発

Yiangou A, et al. Calcitonin gene-related peptide induces headache attacks in people

with idiopathic intracranial hypertension. Brain. 2026;149(8):2629-2642. doi: 10.1093/brain/awag126.

掲載日：2026/05/18

https://www.jhsnet.net/pdf/zutu_topics_171.pdf

- 頭痛の認識ギャップ ― 東京都市部自治体職員における実態調査

Shibata M, et al. Perception of headache-related disability in individuals with and without headache disorders working in a municipal government in the Tokyo Metropolitan Area. Cephalalgia. 2026; 46: 3331024261444665.

掲載日：2026/06/05

https://www.jhsnet.net/pdf/zutu_topics_172.pdf

- 抗 CGRP 治療の次を担うか？ PAR2 阻害抗体が示した新たな片頭痛治療戦略

Kopruszinski CM, et al. Efficacy of MEDI0618, a pH-dependent monoclonal antibody targeting PAR2, in preclinical models of migraine. Brain. 2025;148:1345-1359.

掲載日：2026/06/23

https://www.jhsnet.net/pdf/zutu_topics_173.pdf

- 片頭痛患者での血漿中 CGRP 濃度

Karlsson KW, et al. Plasma CGRP levels in migraine. Neurology 2026;107:e218152.

掲載日：2026/07/09

https://www.jhsnet.net/pdf/zutu_topics_174.pdf

- 三叉神経眼神経に関連した片頭痛様疼痛に関連する中枢性 CGRP 経路の同定

Tanaka K, et al. Identification of a central CGRP circuit for trigeminal V1-mediated migraine-like pain in mice. Brain. 2026 Jun 24:awag217. doi: 10.1093/brain/awag217.

掲載日：2026/09/01

https://www.jhsnet.net/pdf/zutu_topics_175.pdf

【日本頭痛学会　広報委員会】

ニュースレターに関するご意見，問い合わせは＜jhs-office@shunkosha.com＞までお願いいたします．